

ウェルネスな空間づくりに貢献

医療・療養・介護分野 の空調・冷熱特集

NKE

夏の暑さ
冬の乾燥

IoT端末で危険度可視化

病院・介護施設向け見守り提案



林 智広リーダー



岡 友也氏

NKE(社長)中村道一氏、本社・京都市伏見区羽束師菱川3661)は、IoTを既存設備に後付けできる簡易情報連絡端末「れんら君」シリーズの中で、多機能タイプの「CO₂れんら君」を病院や介護施設向けの健康管理の見守り用途で提案している。「CO₂れんら君」は室内のCO₂濃度や温湿度の状況を連続的に測定しモニタ画面に表示するもの。測定値から想定される換気量不足や熱中症・イン

フルエンザの発症を未然に防ぐ空気の危険度(警戒レベル)を示すことができる。警戒レベルを超えた場合、警報プザーや通知メールを発報することが可能。データロギング機能と収集したデータを定期的にメール送信する機能も備えている。同社は空気環境や温湿度状態の改善を促す注意喚起や傾向分析用途での需要を見込む。

「れんら君」シリーズは接点出力が可能な機器、または各種センサーと接続することで、ビル・工場内の設備稼働状況や環境変化をモニター画面にグラフ表示させる機能や、あらかじめ設定した上限・下限値を超えた時に自動で通知メールを発する機能を有している。設定はパソコンと「れんら君」を同じネットワークに接続するだけ。また「WiFi」の環境が整っていれば、スマートフォンやタブレット端末でも設定が可能。

「CO₂れんら君」はCO₂センサー、温湿度センサー、感音センサー、人感センサーの四つのセンサーを搭載した多機能タイプ。センサーで測定したCO₂濃度、温度、湿度の各数値を常時表示するほか、温湿度環境から算出された熱中症警戒レベル(レベルは1〜4までの4段階)、インフルエンザ警戒レベル(同)を同一モニターで表示できる。例えば、CO₂濃度が設定値以上になり、換気が必要となった場合、警報プザーを鳴らしたり、施設管理者のもとへ通知メールを発報したりすることができる。

国内がコロナ禍による健康不安に陥った2020年以降、同社では飲食店の空気環境を可視化する用途で「CO₂れんら君」の採用実績が増大した。営業部営業支援グループの林智広リーダーは「昨年まで非常に関心が高かった換気ニーズに関連したCO₂濃度測定用途での需要は縮小傾向だが、本製品は職場環境での熱中症やインフルエンザへの発症リスクを予防

する用途での需要が見込まれる。現在もコロナ第9波への警戒が求められている中、室内空気環境の安全・安心を担保する

見守り用途での提案を継続している」と話す。また同グループの岡友也氏は「冬場には、病院・クリニックの外来受け付け

など、不特定多数の人が集まる場所でのインフルエンザ発症リスクの低減を図れる点を訴求していきたい」と述べた。